

港区

景観街づくり賞

みどりの街づくり賞

令和6(2024)年度
受賞施設等

目次

港区みどりの街づくり賞 受賞施設	01
oak 港南品川	
Mita S-Garden	
プラウドタワー芝浦	
ワンルーフレジデンス田町	
3rd MINAMI AOYAMA	
審査会委員総評(港区みどりの街づくり賞)	06
港区景観街づくり賞 受賞施設	07
3rd MINAMI AOYAMA	
Mita S-Garden	
港区景観街づくり賞 奨励賞 受賞施設	09
ジューテック本社ビル	
CORNES HOUSE	
港区景観街づくり賞 特別賞 受賞団体	11
港区アドプト・プログラム—道路・公園のボランティア活動	
審査会委員総評(港区景観街づくり賞)	12

港区みどりの街づくり賞とは

港区では、昭和54年度から建築計画に伴う緑化計画書の提出を義務付け、緑化の指導を行ってきました。緑豊かな都市づくりには、公共の緑とともに、民間施設の緑化が重要な役割を果たしています。

「港区みどりの街づくり賞」は、優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している区民や事業者の緑化施設を表彰し、地域緑化への協力に感謝を示すとともに、さらなる民間緑化の発展を願って、平成16年度に創設しました。

対 象	原則として、前々年度に完了した建築計画に伴う緑化施設で、港区みどりを守る条例施行規則の緑化基準を満たしているもの
審査・選定基準	学識経験者、都市緑化に造詣の深い区民及び環境リサイクル支援部長で組織する港区みどりの街づくり賞選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①周辺の景観と調和し、優れたデザインであること／②維持管理が適切に行われていること／③自然環境の保護と再生に努めていること／④建築物と植栽地がバランスよく配置されていること／⑤既存樹木を活用していること／⑥あらゆる生きものが、相互に関わり合いながら生きられる生物多様性に配慮した植栽計画となっていること／⑦在来植物を取り入れていること／⑧地域社会とのつながりを持ち、地区への貢献度及びみどりの公開性が高いこと／⑨先進的又は総合的にレベルの高い緑化技術を取り入れ、新しい緑の創出に創意工夫がなされていること

港区景観街づくり賞とは

港区では、平成21年に港区景観条例を施行し、同年に港区景観計画を策定しました。これらの条例・計画に基づき、建築物の建築等の際に区との景観協議を義務付け、助言・指導を行っています。

「港区景観街づくり賞」は、良好な景観の形成に関して功績のあった民間の施設や活動を表彰することで、皆さんの景観に対する意識の向上を図るとともに魅力ある街づくりを推進するため、平成23年度に創設しました。

港区景観街づくり賞・港区景観街づくり賞奨励賞

対 象	区と景観協議を行った民間施設のうち、前々年度に完了報告書が提出されたもの
審査・選定基準	港区景観審議会委員、港区景観アドバイザー及び街づくり支援部長で組織する港区景観表彰選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①周囲からの見え方に配慮があり、周辺の街並みと調和しているもの／②建築物、植栽等がバランスよく配置されており、憩いと安らぎを創出しているもの／③地域特性を生かしており、まちの魅力の向上に貢献しているもの／④地域社会とのつながりを持ち、区民等への貢献が高いもの／⑤都市景観の創造に先導的な役割を果たしているもの
そ の 他	特に優れていると認める施設を「港区景観街づくり賞」に、より一層の良好な景観形成を期待する施設を「港区景観街づくり賞奨励賞」に選定し、各受賞者に記念品を贈呈します。

港区景観街づくり賞特別賞

港区景観条例による届出対象以外の、良好な景観形成に功績のあった施設や活動に対し、感謝の意を込めて表彰します。

オーク
oak 港南品川

- 所有者：大林新星和不動産株式会社
- 設計者：株式会社大林組一級建築士事務所
- 施工者：株式会社大林組
- 所在地：港区港南二丁目10番9号
- 施設用途：事務所
- 敷地面積：2,635.57㎡
- 緑化面積：538.21㎡
- 接道部緑化延長：73.56m
- 緑化面積率：20.42%
- 接道緑化率：62.88%



選定にあたっての評価コメント

周辺の緑地との関係を見ながら、公開緑地としての三角形の広場が、建物西側に設置されている。ケヤキの高木の周囲にサークルベンチが配置されていて、よく見かけるシーンだが、三角形の一辺が一般歩道と接しているため、より外に開かれたコミュニティ広場とすることに成功している。また建物東側の交差点に接するコーナーにはタブノキが列植され、建物間はピロティになっていて、待ち合わせや雨天時には雨宿りができる。これは、そこに住み、働き、またそこを訪れる人々にとってはありがたいスペースだろう。防風のために植栽されたタブノキの列植は、樹木の成長とともにやがて、そこが頼もしい「守られた空間」に育つことに貢献するだろう。建物周囲に巡らされたガラススクリーン部分が、マッシブな建物本体の存在感を軽くし、樹木の映りにも有効に働いている。機能だけではなくデザインもすぐれている。地域で愛される場所となることを願う。

Mita S-Garden

所有者：DM三井製糖ホールディングス株式会社
設計者：基本設計：株式会社山下設計
実施設計：KAJIMA DESIGN / 株式会社ランドスケープデザイン(外構実施設計協力)
施工者：鹿島建設株式会社 東京建築支店
所在地：港区芝五丁目26番16号
施設用途：事務所、飲食店、駐車場
敷地面積：1,786.13㎡
緑化面積：324.41㎡
接道部緑化延長：72.32m
緑化面積率：18.16%
接道緑化率：67.79%



撮影：①解良信介 / URBAN ARTS
②川澄・小林研二写真事務所

選定にあたっての評価コメント

学校やオフィスが集まる地域の商店街の入口に新しく建設されたオフィスビルは、建物の前面に広く緑豊かなオープンスペースを設けています。オープンスペース内は、地域住民やオフィスワーカーが休憩できるようなベンチやテーブルなどの施設が充実しており、人々の憩いの場になるような作りになっています。また、商店街の入口部に大きな緑地空間が作られたことにより、歩行空間に広がりが増えました。学校が多い地域であることから、入口付近には大きなヤマザクラが植えられており、春の入学シーズンには素敵な風景が見られると思います。植栽は郷土種を中心に常緑樹や落葉樹がバランスよく配置されており、オープンスペースの木々の合間から見える商店街の風景も魅力的でした。角地に緑地空間を作ることで、新しいオフィスビルも自然に街に溶け込んで見えました。今後このオープンスペースがどのように地域で発展していくのが楽しみです。



プライドタワー芝浦

所有者：プライドタワー芝浦管理組合
建築主：野村不動産株式会社
設計者：株式会社竹中工務店 東京一級建築士事務所
施工者：株式会社竹中工務店 東京本店
所在地：港区芝浦四丁目15番1号
施設用途：共同住宅、子育て支援施設
敷地面積：4,134.51㎡
緑化面積：1,201.35㎡
接道部緑化延長：91.60m
緑化面積率：29.06%
接道緑化率：72.15%

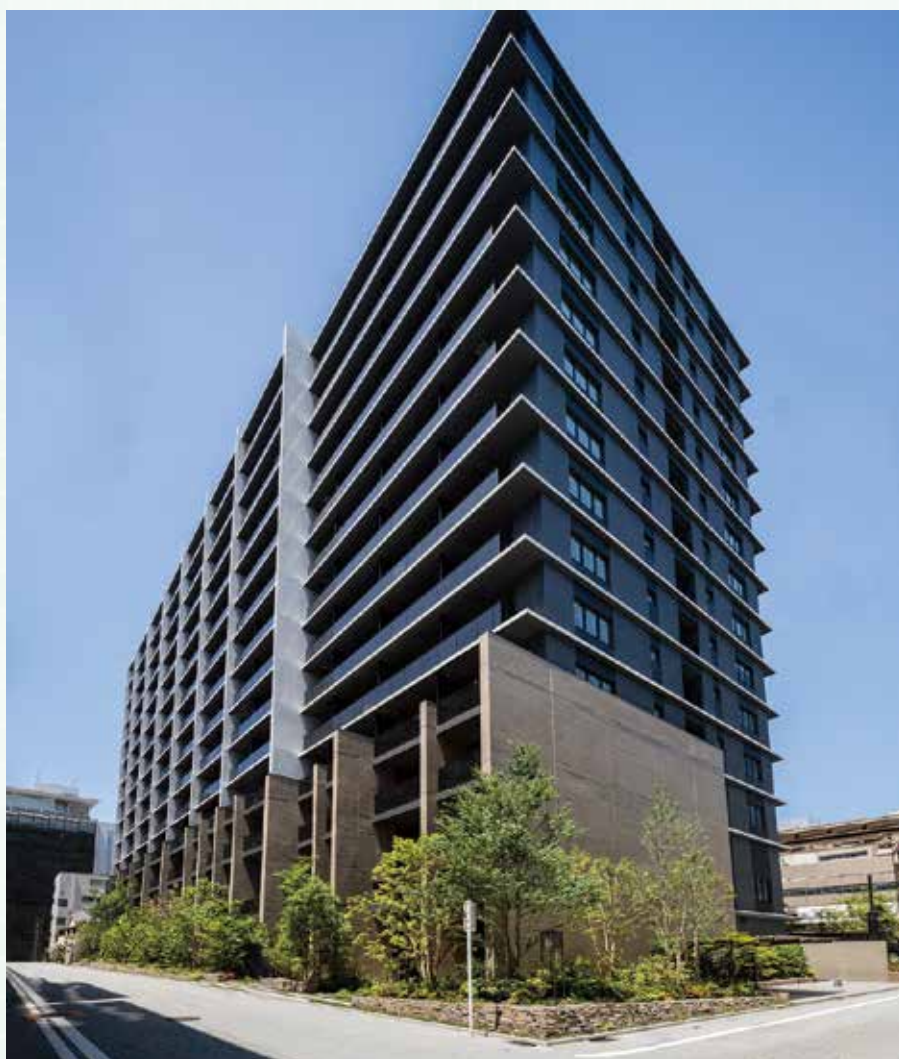


選定にあたっての評価コメント

近くに公立小学校がある立地の交差点に面する道路と一体となってプライドタワー芝浦の緑地は広がります。公開空気が生き、設えられた円弧形ベンチには、連日下校タイムの小学生が雀の子のように賑やかに連なり、地域住民も通勤者も歩道のみならずこの緑地内を心地よく行き交い、時に休憩している様子が日常風景となっています。小さくとも水場の存在は多くの生き物にとって恵みであり、その水景の向きで外来者を建物に近づけすぎない工夫が感じられます。植栽には「様々な樹種を混在させて多様性を」という目的のとおり、なかなかお目にかからない樹種もあり、地域特性や統一性よりも面白みが見出せます。控えめな樹木ライトアップと和風モダンな照明器具で夜景もまたいい雰囲気を醸し出しています。以前この地にあった建物基礎を使って設けた地下駐輪場への出入口の配置や扱いがスマートで好印象。現在はまだ若い木々が適切な手入れをされながら年月を経て「まちの森」となる頃がとても楽しみです。

ワンルーフレジデンス田町

管 理 者：UBS ジャパン・アドバイザーズ株式会社
建 築 主：特定目的会社ゴールドD
設 計 者：株式会社アーキタンツ
 デザイン監修:UDS株式会社
施 工 者：西松建設株式会社
所 在 地：港区芝浦一丁目15番7号
施 設 用 途：共同住宅(賃貸)
敷 地 面 積：1,829.44㎡
緑 化 面 積：236.28㎡
接道部緑化延長：94.01m
緑 化 面 積 率：12.92%
接 道 緑 化 率：71.23%



選定にあたっての評価コメント

14階建ての賃貸マンションで1R/1K、1DK、1LDK、の合計が213室、2LDKが30室となっている、つまりワンルームが主体のマンション。港区内のワンルーム系のマンションは緑地面積、植栽本数がほとんど基準ギリギリで、駐輪場を設置したら道路からは植栽などほとんど見えず、緑化などやりたくないという印象のデザインが多い。しかしこの案件は敷地の立地特性を汲み取り、基準を超える緑化面積、接道緑化を行っており、植栽により緩やかに仕切りフェンス等も設けず道行く人にも楽しめる状況。またその内容も武蔵野の里山をモチーフにした雑木の風景となっており、シンボルツリーのヤマザクラを印象的に使った四季の変化が楽しめる植物になっている。また、その植栽に品格を与えることに成功しているのが接道部に設置されている根府川の石積み。建物のファサードの色調もあいまってエクステリア含めてよい景観になっている。

3rd MINAMI AOYAMA

所有者：有限会社五光／ジャパンリアルエステイト投資法人
 事業主：有限会社五光／三菱地所株式会社
 設計者：全体設計監理：株式会社三菱地所設計
 ランドスケープ設計：大林ランドスケープ設計事務所
 施工者：鹿島建設株式会社
 所在地：港区南青山三丁目1番34号
 施設用途：事務所、物販店舗、飲食店舗、駐車場
 敷地面積：2,405.82㎡
 緑化面積：568.02㎡
 接道部緑化延長：67.70m
 緑化面積率：23.61%
 接道緑化率：78.00%



撮影：西川公朗

選定にあたっての評価コメント

青山通りからは建物の両脇の通路が緑化されているぐらいしかわからないが、地上13階建てのオフィスビルの足元を階高8mにもなるピロティ空間と、エントランス園路の外部空間を組み合わせ路地のように扱い、様々な緑の空間をつくり、建物利用者、周辺住民の憩いの場を創出している。南側奥に設置された店舗の庭のようなポケットパークの北側には、築山のような緑地を見るウッドデッキテラスの演出も面白い。ポケットパークの奥のアクセントになっているコンクリート焼き杉板仕上げのウォールは建物、舗装等を調和し面白い景観を作っている。また、その北側には社がおかれ、静かな空間となっている。このように雰囲気違った場がいくつかできているが、緑地と舗装の扱いがうまく、違和感なくつなげている。北側の外苑西通りからの侵入が階段になっていることで若干わかりづらいが、それもこの空間の面白いところで、わかる人しか通れない、まさに下町の露地のような雰囲気。

審査委員総評

与条件を生かすことの大切さ

大都市、東京、港区の中に「みどりの街づくり景観」を創出すること自体、至難な課題だと思う。しかし、さまざまな条件をクリアした作品を受賞対象として選ぶことも簡単なことではない。都市空間には与条件として、すでにやっかいなものが敷地内に山ほどある。敷地内外の河川(水面)、高架道路、隣接するビル群、既存の公園や緑地等々、こうした条件を組み上げて、作品の構想を練ることになる。当初から建物の目的・形状が決められて、どう配置するかの手順がほとんどかと思われるが、あまりに建物が巨大である場合、これをすべてに優先すると、与条件を生かすこと自体が困難となる。例えば、建物(機能)の分散によって、景観構成を考えれば、敷地の内外にある水面(河川)の存在も緑(植物)以外の自然要素として有効利用も可能となるのではないか。計画・設計に先行して、与条件を生かす景観構成を是非構想してほしい。



赤坂 信

千葉大学 名誉教授



山崎 誠子

港区景観審議会委員
日本大学短期大学部
建築・生活デザイン学科 准教授
有限会社GAヤマザキ 取締役

港区の地形を生かした緑地づくり

港区は、ホームページを検索するとわかるように北西一帯の高台地、南東の東京湾に面した低地と芝浦海浜の埋立地からなっていて、その台地は武蔵野台地の末端で、東京23区の中で最も起伏に富んだ地形になっていて、区の中央を古川が流れている。今回の候補に上がった案件のいくつかはその起伏ある土地や川のそばに立つものがあり、最終的にそれをうまく取り入れたものが賞となった。今はネット検索の地図情報、ストリートビューなのでその場所に行ったかのような感覚を得られるが、実は地形の感覚がそれだけではわからない。実際に人が見ている風景は道路や川がすこし曲がっていただけでも奥行きが見え方が変わり、風の向きも変わっている。また、自然の高低差はそれを突き進むと視点が変化するなど風景をドラマチックにみせる装置としてとても有効で、造成で簡単に平坦な部分を作ってしまったらもったいない。港区ならではの緑地、地形の作り方を受賞作品にみてもらえると幸いです。

21回目の港区みどりの街づくり賞

少子高齢化・人口減少社会の中、都心港区での再開発はまだ旺盛で、オフィスビルの建替えとともに何百戸という集合住宅建設に伴う緑地創生が多かった印象です。嬉しいことに新たな緑地づくりの多くは上手に周囲の緑や広がり環境を取り込んで生かし、まとまったボリュームの緑地となって公開され、地域住民や行き交う人々のオアシスとなっていることが目を惹きました。ただ、新たな緑地づくりの樹種選定には「生物多様性」が謳われ、その理解は一樣ではないことはわかるのですが、開発エリアだけではなくもっと広い視野・視点と、人の寿命より長いその先の未来を見つめて考慮していただけたらと願います。

今回はこれまで以上に、緑の存在がまちとともに人にも、環境にもやさしいまちづくりに貢献することが浸透してきていると感じ、創設から21回目と歴史を重ねた「港区みどりの街づくり賞」が、緑あふれる素敵な港区づくりに貢献していると思いました。



藤野 珠枝

元港区景観アドバイザー
藤野アトリエ一級建築士
事務所 主宰
港区在住



岩男 弘美

港区景観アドバイザー
有限会社GAヤマザキ
シニアディレクター

開かれたみどり創出

港区は常に街が変動しており、毎年多くの新しい建物・緑地空間が生まれています。受賞作の緑地は、ただの空き地にみどりを植える以上の空間であり、地域の特性や機能、生物多様性、地域貢献などを考え、みどりのある生活をどのように取り入れ、作るのかが考慮され、気持ちの良い空間であったと思います。それぞれの緑地空間は、時間が経つにつれてその成熟度が明らかになり、良くも悪くもその変化が見られました。また今後変わっていく可能性がある樹種も見られました。みどりは生き物なためその後の管理次第で見栄え、状態が変わっていきます。その中でも良いと思える緑地空間は地域に開かれ、人々が集うことができるものが多かったです。常に人が見ている場所は樹木が生き生きとしており、見た目も良く維持管理も行き届いていました。今後も開かれたみどりの創出、そしてその後何十年にも渡り維持管理を行う心意気があるみどりを期待します。



3rd MINAMI AOYAMA

事業主：有限会社五光／三菱地所株式会社
所有者：有限会社五光／ジャパンリアルエステイト投資法人
設計者：株式会社三菱地所設計
施工者：鹿島建設株式会社
所在地：港区南青山三丁目1番34号
施設用途：事務所、物販店舗、飲食店舗、自動車車庫、自転車駐車場
敷地面積：2,405.82㎡
高さ：59.98m
景観協議の対象行為：建築物の新築



撮影：西川公朗

審査委員コメント

① 商業系と住居系用途地域。制約の異なるエリアが敷地に併存する状況を逆に、景観の変化に富む小気味よい歩行空間を創出した。表通りの華やかなショールーム、奥まった箇所に洒落たレストラン。表と奥という空間対比を軸に、「緑のプロムナード」、「ポケットパーク」、外苑西通りに抜ける坂道や青山通りに至る「木陰の小道」など、規模感の異なる歩行スペースが組み入れられ、つながれている。地上レベルが歩行者目線によって編まれた、丁寧な仕事だ。

② 交差点に近接し人々が滞留することを踏まえ、建物の壁面をセットバックして青山通りの歩行者に配慮した配置計画となっている。また、青山通りと外苑西通りに接道していることから、奥まった広場状空地と歩行者動線をつなげ、新たな魅力ある通り抜け空間として解放している。その空地の植物選定と配置において、季節ごとに異なる表情を見せる多様な植物が組み合わせられており、四季折々の風景を日常的に感じることができ、訪問者を迎え入れるに相応しい空間を創造している。



Mita S-Garden

所有者：DM三井製糖ホールディングス株式会社
 設計者：基本設計：株式会社山下設計
 実施設計：KAJIMA DESIGN / 株式会社ランドスケープデザイン(外構実施設計協力)
 施工者：鹿島建設株式会社 東京建築支店
 所在地：港区芝五丁目26番16号
 施設用途：事務所、飲食店、駐車場
 敷地面積：1,786.13㎡
 高さ：50.47m
 景観協議の対象行為：建築物の新築



撮影：①解良信介 / URBAN ARTS
②川澄・小林研二写真事務所

審査委員コメント

- ① 田町駅西口は大通りに面して忙しい印象で、その先に多くの人が行き来する慶応仲通り商店街がある。その入口に緑地を配したビルができ街の風景が変わった。1階ラウンジがガラス仕様のため圧迫感が少なく、昼はガラスに緑が映り、夜は照明の光が染み出し、ベンチの土台のタイルから漏れる明かりも広がって心が和む。柱も土壁風仕上げで自然感UP。カウンターも配置され多様なスタイルでのんびりできそうである。
- ② 道が広くなった? いや、商店街と駅方面の人の行き来を木の葉越しにうっすら感じさせているのが絶妙なのです。ビルの1階と広場がワンフロアのような開放感。ベンチで社員が棒アイスをかじっていた。高齢者支援課の支援アプリ「みんチャレ」仲間からの「和菓子緑日」通知の場所は、なんとここでした。区民の口コミがあるなんてすごい。多様な集いの可能性は無限大、対応力が最強だと思う。

ジューテック本社ビル

所有者：株式会社ジューテック(ジオリーブグループ)
設計者：鹿島建設株式会社 建築設計本部
施工者：鹿島建設株式会社 東京建築支店
所在地：港区新橋六丁目3番4号
施設用途：事務所
敷地面積：739.56㎡
高さ：38.08m
景観協議の対象行為：建築物の新築



撮影：①阿野太一/フォワード
②鳥尾望/エスエス

審査委員コメント

①都市木造に取り組んだ意欲作。構造体自体の工夫もさることながら、柱周りのガラスファサードに凹凸をつけ、そこに間接照明を仕込むなど、通りからどのように見えるかを意識したディテールも秀逸であった。またアイレベルでも、赤レンガ通りのテクスチャを1階部分で積極的に使うなど、周りの文脈を受け継いでいく姿勢も見られたのが好印象であった。

②疲れて「ちいバス」に乗り家路へ向かう途中、夜の工事現場の先で急に暖かいオレンジ色に照らされた。顎をグッと持ち上げ、外を見た。「ホテル？」ガラス張りからの光にほっとした。日中に訪れ、点と点がつながる奇跡。入ると木の香り、香りはダイレクトに脳に効く。木を使う心意気は尊敬に値する。外壁にミストや滝、つる性植物を配せば、涼み処に進化する可能性大。

CORNES HOUSE

所有者：コーンズ・アンド・カンパニー・リミテッド
設計者：株式会社竹中工務店
施工者：株式会社竹中工務店
所在地：港区芝三丁目3番10号
施設用途：事務所、物販店舗
敷地面積：1,436.75㎡
高さ：59.61m
景観協議の対象行為：建築物の新築



撮影：①井上登
②株式会社ナカサアンドパートナーズ

審査委員コメント

① 高級輸入車の本社ビルというプログラムと立地条件から、ともすれば周囲の環境から乖離したデザインになりがちなところを、ボリュームの文節や素材の選定などあらゆる側面において丁寧に設計しきることによって、存在感がありながらも威圧感がなく、上質なまちのシンボルとして相応わしい作品となっている。また高速道路側に対する見せ方も素晴らしく、まちの風景に新たな彩りを与えてくれたことは喜ばしい。

② 建物の南側の前面道路に面する部分は、独特な外装材を用いたことによる重厚感と、ガラスカーテンウォールによる透明感と展示物である車の存在感がバランスよく共存し、特徴あるファサードでありながら、この地域に馴染んでいる印象を受ける。また、北側は、首都高速や芝公園からの見え方を意識した建物自体がひとつの広告塔となるようなデザインで、ランドマーク的な要素の強い建物となっており、今後、階層に分かれた屋上緑化の木々が成長とともに変化していく様子が楽しみである。

港区アドプト・プログラム 道路・公園のボランティア活動

港区アドプト・プログラムとは

港区アドプト・プログラムは、地域の方々が道路・公園の維持管理（清掃や花壇管理等）を自主的に行う活動のことです。区民等が相互に協力し、地域の共有財産である道路・公園等の緑化活動や清掃等を行うことにより、道路・公園等への愛着心を深め、利用者のマナー向上と清潔で快適な街づくりの推進を目的として、平成14年度から実施しています。

今年度の受賞団体

今年度の受賞団体は、港区アドプト・プログラムで活動継続5年を経過した団体です。地域の皆さんが主体となった清掃・修景を行うことで、身近な景観街づくりに大きく貢献していただいています。区から感謝の意を込めて、特別賞として表彰します。



令和6年度景観街づくり賞特別賞 アドプト登録団体一覧 活動継続5年を経過した団体(令和5年度末時点)

	実施団体	場所・種別	活動内容	地区
1	芝浦桂歯科診療所	道路	花壇管理	芝浦港南
2	根岸 晴美	公園	花壇管理	芝浦港南
3	平化会	緑地	花壇管理	芝浦港南

アドプト・プログラム問合せ アドプト・プログラムについて 各地区総合支所まちづくり課土木担当

各地区 芝地区 03-3578-2032 麻布地区 03-5114-8803 赤坂地区 03-5413-7015
電話番号 高輪地区 03-5421-7664 芝浦港南地区 03-6400-0032

審査委員総評

設計対象を全体として編集し直して見事な成果に

審査会メンバーの専門分野は造園、建築、色彩、景観と多様です。また、公募委員が区民目線で参加しています。だから作品の評価が別れても不思議はありません。が、全員が高く評価する作品が時折登場します。そのような作品はその魅力が全体として一挙に伝わってくる、というのが私の経験です。思うに、設計者は、要らざるものを削ぎ落とし足らざるものを補いながら、設計対象を何度も全体として編集し直している。そんな機会を与えてくれる施主も、それに応えられる設計者も多くはないでしょう。ありがたいことです。いっぽう、そのような作品の講評はもどかしい。評価を、全体としてではなく専門的見地から細かく分析した結果のように書くことを強いられるからです。

齋藤 潮

港区景観審議会 会長
東京工業大学
名誉教授



杉山 朗子

港区景観審議会 副会長
株式会社日本カラー
デザイン研究所
研究フェロー

まちの未来の姿を期待させてくれる 景観デザインへの多様な取組

周辺住民やビル利用者の毎日の生活への貢献を感じさせてくれる新しい街のデザインの総合的計画が多く見られた。朝昼晩の変化の魅力を倍増させる照明デザイン、快適に過ごせる植栽やオープンスペースの工夫、イスだけでなくテーブルなども配置し読書や飲食もできる空間等々に目を見張る。周辺環境を意識したオリジナリティの高い外装材デザインも何気なく街の品格を上げてきている。景観という視点から見て、ぐっとレベルアップしたと感じた。道路との関係や地形を活かす視点での検討もされ、その地域の独自性を活かす取り組みとなっている。「都市」の生活デザインの再検討の始まりといえる計画が充実した画期的な年に参加できたことが嬉しい。

建築物を見て回り毎日が楽しい小旅行

南海トラフも首都直下地震も政府はくると伝えている。生死にかかわる暑さや豪雨、蚊が媒介する病なども増えている。街に関係する業種は真摯に対応している。様々な変化に対応すべく、思いが詰まった作品達を見せて頂いた。その心意気が詰まった作品達に優劣は付け難いが、特に光ったのが周囲も巻き込みよい方向へ動かした受賞作品だ。周囲を考えたらうで設計、建築され、その配慮する気持ちがより強いと感じた作品に私は惹かれた。作品の関係者には感謝しかない。なぜかという一般的な世の中でより良く調整する面倒見が良い企業や人は有難いのだ。今回の作品達や都会の激しい変化を見て回ると好みの場所かどうか空気感で分かる。毎日が発見、楽しすぎる。

根岸 晴美

港区景観審議会
区民委員



若松 美津子

港区景観アドバイザー
株式会社ウリブカス

心地よい緑の空間づくりを

港区は、文化的な背景や歴史、地域性、敷地の条件等が多岐に渡り、景観として方向性を統一することにあまり意味を持たないということに気付かされる、それぞれに洗練された計画をたくさん見ることができた。その中で、地域の景観を守りつつ新たな景観を形成させるという試みを示した計画に評価が高かったように思う。景観の要素の一つである緑の観点から心惹かれる計画とは、計画の規模の大小に関わらず、「ここに腰掛けてアイス食べようかな」と思わせるような、ヒューマンスケールに立ち返るといふ美しさへの追求だけでない少し泥くさいデザイン作業の手間を経た設計のものなんだと強く感じた。今後も永続的な人々に寄り添う緑化空間づくりを期待したい。

人々の振る舞いがつくる都市景観

プログラムも規模も異なる数多くの作品同士を比較することは容易なことではないが、ここには選ばれた4作品はどれも「まちとの関係」を考える上で、高く評価されたものである。これらはただ既存の文脈に則っただけのデザインではなく、既存の文脈を受け継ぎながら次の一手が力強く打ち込まれたもので、今後も強い影響力を与えてくれるであろう作品たちだ。具体的には空地を設けることで生まれる動線の活性化や、形態の分節・複雑化によるアクティビティの多様化など、まちとの境界を揺るがすことでコミュニケーションを促している。改めて「景観」とは、建物の立ち姿だけでなく、そこでの人々の振る舞いも含めたものだと思わせる。

藤井 亮介

港区景観アドバイザー
藤井亮介建築研究所





みどりの街づくり賞

港区環境リサイクル支援部 環境課

港区芝公園 1-5-25 TEL: 03-3578-2330

景観街づくり賞

港区街づくり支援部 都市計画課

港区芝公園 1-5-25 TEL: 03-3578-2244

